

地質調査資料整理要領(案)に関する意見

頁、項目等	頂いた主な御意見	国土交通省の考え方
共通 管理ファイル	各管理ファイルに含める項目の説明で、ファイル名に関する項目の文字数が「8+3」となっていますが、「」（ピリオド）も含め「12」とすべきではないか。	ご指摘の通り修正します。
P1-9 その他管理ファイルの定義内容	誤:<!-- OTHERS100.DTD DTDバージョン:1.01 --> 正:<!-- OTHERS101.DTD DTDバージョン:1.01 -->	ご指摘の通り修正します。
P1-10 その他管理ファイルの記入例	誤:<OTHERFILES DTD_version="1.00"> 正:<OTHERFILES DTD_version="1.01">	ご指摘の通り修正します。
P2-4 地質情報管理ファイル	表4-1の地質情報管理ファイルでは経緯度の表記が"度+分/60+秒/3600"となっているが、P2-33のボーリング交換用データでは、度(整数)-分(整数)-秒(実数)となっている。できれば、度(整数)-分(整数)-秒(実数)に統一したほうがよい。	ご指摘の通り、経緯度については、地質情報管理ファイルでは10進表記であるのに対し、ボーリング交換用データでは60進表記となっています。地質情報管理ファイルについてはデータベース化し、検索やGIS等のデータとして取扱う際の利便性等を考慮して、10進表記としてきました。しかしながら、両者の表記方法は統一した方が混乱が少ないため、地質情報管理ファイルの表記方法を60進表記に変更します。
P2-4 地質情報管理ファイル	土質試験及び地盤調査管理ファイルでは測地系を記入することになっているが、P2-4の表4-1の地質情報管理ファイルではその項目がない。両者の座標を一致させるためにも、地質情報管理ファイルに測地系の項目を追加すべきではないか。	地質情報管理ファイルについても測地系の項目を追加します。
P2-21 電子簡略柱状図の標準様式	7-5 電子簡略柱状図の標準様式について、標準記述様式では標高を以下のように作図することになっている。 標高がT.P.+2.30mの場合 T.P.=2.30m しかし、これはT.P.が2.30mであるとの誤解(または混乱)を与えるので再検討されたい。	「T.P. 2.30m」の形で修正を行います。
P2-33 ボーリング総数、ボーリング連番	ボーリング交換データのA様式の記入方法について確認したい。 ページ2-33でボーリング総数とボーリング連番の記入例ではそれぞれ「10」と「1」になっているが、「0010」「0001」とゼロ埋めは必要ないのか。	ボーリング総数、ボーリング連番の記載に当たっては、「1」あるいは「0001」のいずれの表記でも構いません。
P2-62 P2-125 E1様式:標準貫入試験	2001年に改正されたJIS A 1219:2001の大きな変更点である本打ちの試験方法が納品物に反映されていない。 新しいJISでは「本打ちにおいては、打撃1回ごとに累計貫入量を測定する。ただし、N値の利用目的に応じ、貫入量10cmごとの打撃回数を測定してもよい」となっており、本打ちは1回ごとの測定が基本である。しかしながら、本要領(案)においては、1回ごとの記録は一切残らないものとなっている。1回ごとの記録及び試験ごとの打撃回数と累積貫入量との関係を示す図を納品物に追加すべきである。	要領案の次期改訂時にJIS A 1219-2001に対応した様式を追加する予定です。
P2-62 P2-125 E1様式:標準貫入試験	本要領案では貫入量が整数(cm)と規定されているが、JISにおいては自動記録装置の定義があり、mm単位での記録となっているのでmm単位に変更されたい。 (JISでは自動記録装置の機能としてmm単位での測定が出来ることと記載されている。)	要領案の次期改訂時にJIS A 1219-2001に対応した様式を追加する予定です。
P2 107 表8 59 断層・破碎帯の性状コード	コード 性状 1 シュードキライト 専門的で実際に分類も困難なことから、3種類を 2 マイロナイト 一つにして圧碎岩あるいは破碎岩とした方が混乱 3 カタクレーサイト が無いと思う。	運用状況を踏まえ、引き続き検討いたします。

地質調査資料整理要領(案)に関する意見

頁、項目等	頂いた主な御意見	国土交通省の考え方
P4-3 ファイル命名規則	「CAD製図基準(案)」についても言えるが、図面のファイル名称を説明する表において整理番号の欄に「A～Z」が抜けているのではないかと。 例)ページ4-3 表2-1 地質断面図のファイル名称の整理番号の欄	ご指摘の通り修正します。
P6-1 土質試験及び地盤調査の電子成果品	要領(案)第6章2-1(3)で述べられているとおり、電子土質試験結果一覧表は、電子成果品である土質試験結果一覧表データ(XML)に格納されている情報であり、同じ情報を異なった形式で重複して電子成果品として納品することの必要性は以下の理由により極めて低いと考えられる。 ・土質試験結果一覧表は、土質試験結果一覧表データ(XML)から生成可能である。 ・同じ情報を重複して納品することは無駄であり、電子納品のデータ量が増加する。 従って、土質試験及び地盤調査の電子成果品の対象から、土質試験結果一覧表(PDF)を削除することを提案する。 土質試験結果一覧表については、土質試験結果一覧表データ(XML)から土質試験結果一覧表に変換するプログラムを作成し、国交省などのホームページからダウンロードできるように整備すれば、誰もが同じ形式の電子土質試験結果一覧表を閲覧することができる。	ご指摘のとおり、「電子土質試験結果一覧表」(PDFファイル)と「土質試験結果一覧表データ」(XMLファイル)は同じ情報を異なった形式で作成したものです。ビューアが整備されれば、電子成果品をXMLファイルに一本化し、PDFファイルを削除することも可能です。 しかしながら、現時点ではXMLファイルを一覧表形式で閲覧、及び印刷することが可能なビューアは未整備であるため、当面の間は要領案のとおり、「電子土質試験結果一覧表」(PDFファイル)と「土質試験結果一覧表データ」(XMLファイル)の電子成果品を合わせて納品することとします。 なお、ビューアが整備された時点で、「電子土質試験結果一覧表」(PDFファイル)の電子成果品の廃止等について検討する予定です。
P6-11 電子データシートのファイル名称	5-2 電子データシートのファイル名称に関して、TSNNMMMM.PDFのNNNNは深度、MMMMは試験の種類を表すようにした方が、他データとの比較の際に見やすく、また検索しやすいと考える。 現状では開いてみるまで何の試験を実施したか分からない。またMMMMが001でも、ある孔では土粒子の密度で、ある孔は含水比といったことが起こり分かりにくい。 (例)TS010001.PDF 深度10m～11m間(010)、試験は土粒子の密度(001)	深度、試験の種類等の情報はファイル名称ではなく、管理ファイル(土質試験及び地盤調査管理ファイル)で管理することとしています。したがって、要領案にあるファイル命名規則に従ってください。
P6-12およびP6-13 ファイルに含めるデータシートの数量	「4-4 ファイルに含めるデータシートの数量」の規則について、この規則では、例えば地盤工学会の「含水比試験」のデータシートは、1枚のデータシートに計10試料の結果を入力できます。ところが、上記の規則に従いデータ入力を行うと、1枚のデータシートに1試料の含水比試験結果しか入力することが出来ないため、単純計算で、含水比試験のデータシートの枚数が、現行の入力方法に比べ、最大10倍になってしまいます。 可能ならば、従来のように1枚のデータシートに、複数の試料の入力を可能とするような規約に変更されたい。	ファイル管理の容易さや、利活用の側面から、以下の理由により、1試料、1試験ごとに1つの電子ファイル(PDF)を作成することとしています。 ・土質試験データに関するPDFファイルとXMLファイルを1対1に対応させることが可能 ・土質試験データとボーリングデータを1対1に対応させることが可能 したがって、電子ファイル作成の際には、1つのデータシートに1試料づつ入力するようにしてください。
P6-53 9-5 データシート交換用データ全般について	データシート交換用データを構成するデータ項目には、デジタルデータとして再利用される可能性が極めて低い情報が含まれている。(例:土粒子の密度試験の「試験情報」など) これらの再利用されることのない情報をデジタル化することは、労力と費用の点から必要性は高くないと考えられる。 全てのデータ項目について、必要性の有無の再検討が必要であると考える。	データシート交換用データの電子フォーマットについては、地盤工学会が定める土質試験データシートが再現できることを基本に検討しました。 試験の途中過程など再利用性の低いデータについては記入必要度を任意にするように修正します。
P6-75 グラフのデータ様式、共通DTD:グラフの構造図	第6章の共通DTD(T_GRP_01.DTD)の説明において構造図とDTDにおいてデータの項目名、出現回数に不整合が起きている。 P6-75の構造図では目盛ラベルの下の項目はオフセット(?),表示(1),ラベル指定(*),書式(?)となっている。 P6-78のDTDの記述では <ELEMENT 目盛ラベル(オフセット?,表示?,ラベル指定?,目盛ラベル_書式?)>となっており、出現回数、項目名が一致していない。	P6-78のDTD定義は誤りであるため、修正します。